



# うだのみくまり

通巻第52号

《新春輯》

〈発行者〉

宇太水分神社  
神徳宣揚奉講

頌

春

令和六年 元旦

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年も全国水道事業の発展とこの事業に携わるみなさまが健やかにご活躍されますことを祈念いたしております。

## 元に復せた例大祭

令和元年五月五日、國玉本殿創建七年を記念して盛大に斎行した大祭以来、早五度目の新春を迎えました。本年三月には、その三棟の本殿が昭和二十九年に国宝指定を受けてより七十年であります。室町時代の大洪水で流失した一ノ大鳥居を昭和五十九年、鋼鉄で再建して四十年であります。

当社と致しましては、大きな節目の年である…と受け止めてよからうと存じるところ

であります。

ところ、それに先だって昨年は、その事の恰も前祝いの如く、例大祭をコロナ禍前の次第に復することが叶いました。感染症の衰勢基調にあつた一昨年に、神輿渡御が見送られた事に、前号の本稿で私はコロナは表向きの理由で、経費的な事だつたり人員確保の問題が内在している…と、吐露しました。

方向性を確定すべき初夏の頃、惣社と当社は先祖から繼承してまいつた伝統の祭礼を、ここで絶やすべからず…という一致点に達しました。渡御行列の要態が完璧でなくとも、復すのに妥当な環境を協議したところ、当社側が人員面での協力を増強する事等で、概ね

帰結しました。

さて十月十五日の祭日は、前日の郷社例祭

日程後半より降りだした雨が宮本太鼓台出発お祓い直前まで残つておりましたが、次第に回復し概ね晴天に恵まれました。コロナ禍により控えておりました来賓参列は、一昨年より再開致しておりましたが、昨年も大勢の方のご臨席を賜り、嚴粛に斎行申し上げる事ができました。

宇太水分神社

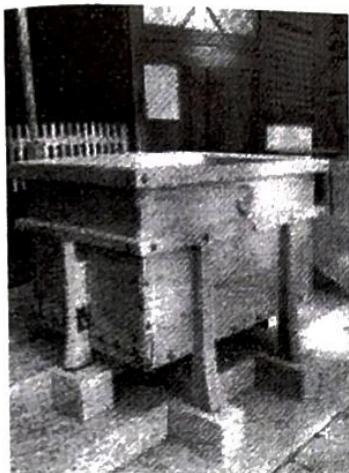
宮司三家一彦  
氏子総代一同

一昨年は感染対策として太鼓台運行は、車輪を装着して少人数での実施に止めておりましたが、六基揃つて勇壮に担がれての宮入りの中、姫神様は芳野太鼓台に導かれての当社着御と相成りました。

結果的に、渡御行列への当社側人員協力は二倍近くになり、所作を伴う所役も加わりました。ご理解くださつた方々に感謝致しますと共に、それにより伝統が繋がった事を誠に有難く存じます。

とは申しますても今後益々、氏子地域を取り巻く環境は厳しくなる事は、想像に難くありません。節目に際して、昨年の例大祭に賑わいが戻つた事に鑑みて、祭儀の重要性の認識を、改めて思慮致してまいりたく存じるところであります。

# みくまり



昭和三十四年に襲われた伊勢湾台風の後、芳野川の護岸が嵩上げされ、その上を通る国道166号線を折れて少し下ると、一ノ大鳥居がある。それ四十八年竣工の拝殿の開けられた前後を過ぎて前方を見ると、鎮守の社に屏風の如く高々と繁る樹木を背景に、同殿前に置かれた賽銭箱に意識が移る。扇越しに中門に附けられた菊の御紋が目を惹く。視線を少しく下げる。拝殿進んで二ノ鳥居を潜り、手水舎で手口を清めて、近づくにつれて以前のそれは、風雨に晒され酷く朽ちていた印象が鮮明であつたのではないだろうか。

昭和十二年に生まれた宮司に、何時頃に造られたものかと訊くと、小学校高学年の頃…という。それから計算すると、七十年以上が経過している事に

初めに触れた伊勢湾台風では地域が浸水し、その後の昭和四十七年の台風では旧拝殿が倒壊したが、二度襲来した自然災害にも耐え、参詣者の前に在り続けてくれていた。

予てより私共は、腐食に因つてその部材が歪んでしまつてゐるような状況を憂慮し、新調できないものかと、思いめぐらせていた。その思いは総代方も共有されていて、年始の役員会等で話題に上り、俄かに造り替える方向で纏まつた。

優先して都市近郊で暮らす氏子の方もおられる。昭和から平成そして令和と、二度に亘る改元は、我々に目まぐるしい社会構造の激変を経験させている。大神様は七十余年、その賽銭箱に投じられた淨財に参詣者の様々な想いを、聞食してくださつてこられた事と畏くも拝察する。

正しく昨春新調した賽銭箱は、恰も建造物の如くに国宝本殿に相応しい重厚な佇まいで、拝殿前基壇に座していい。大神様と参詣者の仲を執り持つ存在として、役員方が心を込めて造られた賽銭箱に淨財が捧げられ、永く祈念が為されていく事を、念じたい。

「つくる」という文字にはいくつかの漢字が当てられている。「作る」、「造る」、そして「創る」である。(中略)順に、心が籠った意味合いとなるとして、「造」の世界は頭だけではなく、全身でそこに与することが求められる。(後略)(令和五年十一月十一日付日本経済新聞『言葉のちから』批評家若松英輔:というコラムの中に、こんな一節が

A black and white photograph showing a traditional Japanese garden scene. In the foreground, a low stone wall and a path lead towards a large, dark, rounded tree. Behind the tree, a traditional wooden building with a tiled roof is visible through a dense thicket of bushes and trees. The overall atmosphere is serene and classic.

あるが、六月の全国清々会では滋賀・油日神社に正式参拝が叶つた。平成三十年に当社に大勢の方々が参拝されたお宮で、是非とも伺いたく思つており、とても楽しみにしておりましたら、神職様は私を覚えておられ、忝い思いを致した次第である。更に九月の全国春日連合会では、開催県の岐阜の加盟社関春日神社に、総会開会に先立つて正

## 七十余年ぶりに 賽銭箱を新調

済成長は、東海道新幹線の開業や前回の東京オリンピック、また、これも前回の大坂万国博覽会といった事柄を齎した。国民は次第に展望が開けて、躍動感が漲っていた時代であつたろう。

その調整に当たつては、氏子総代森本定雄様が社長をされていいる森庄銘木産業株式会社に、櫻の良材を確保されていりとの事で、快くご提供頂いた。また製作に際しては、松井天神社の郷

ある。講員の皆様が参拝されたのも理由の一つかが、斯界の研修旅行等の復活に因るところが大きい。中でも、六月二十三日に催行された奈良県神社総代会研修は、本部役員七名が参加され、弘法大師の御廟参拝を行った。

鍊の実演を見学させていただいた。本  
来は実施日でないにも拘わらず、連合  
会の為特別にしてくださり、職人と炎  
の真剣勝負に圧倒される思いで、その  
技に感銘した。また十一月の神社庁研  
修旅行では、淡路島の伊弉諾神宮に詣  
で、禰宜様から様々大変興味深いお話  
を伺つた。その中でも真東に向かうと  
伊勢の神宮があり、そのライン上の由  
ほどには、飛鳥の宮が位置している…  
という話は、予てより識つていたが、

改めて感心する事となつた。  
旅は平素の生活では得られ  
点や感情を齎して、日常的に

改めて感心する事となつた。  
旅は平素の生活では得られない、視  
点や感情を齎して、日常的に接してい  
る人と旅路と共にしても、会話の中で  
意外な一面を垣間見られたりする。  
本年最初の機会として、今月二十六

改めて感心する事となつた。  
旅は平素の生活では得られない、視  
点や感情を齎して、日常的に接してい  
る人と旅路と共にしても、会話の中で、  
意外な一面を垣間見られたりする。  
本年最初の機会として、今月二十六  
日には神社庁主催神宮団体参拝を、五  
年ぶりに予定している。参加者を募集  
しているところだが、可能な限り大勢  
で親睦を深める伊勢路こちたく思う。

|                        |                                   |
|------------------------|-----------------------------------|
| ○ 令和四年<br>十二月<br>一日    | 自<br>至<br>令和四年十二月一日<br>令和五年十一月三十日 |
| ○ 令和五年<br>一月<br>一日     | 月次祭                               |
| ○ 令和五年<br>三月<br>三十日    | 津市上下水道参拝                          |
| ○ 令和五年<br>五月<br>二十五日   | 祈祷(五名)                            |
| ○ 令和五年<br>五月<br>二十五日   | 迎春準備(門松立・<br>夫婦杉注連縄掛け等)           |
| ○ 令和五年<br>六月<br>師走の大祓式 |                                   |
| ○ 令和五年<br>七月<br>一日 嶽旦祭 |                                   |



|  |
|--|
| 改めて感謝する事となつた。<br>旅は平素の生活では得られない、視<br>点や感情を齎して、日常的に接してい<br>る人と旅路を共にしても、会話の中で、<br>意外な一面を垣間見られたりする。     |
| 本年最初の機会として、今月二十六<br>日には神社庁主催神宮団体参拝を、五<br>年ぶりに予定している。参加者を募集<br>しているところだが、可能な限り大勢<br>で親睦を深める伊勢路にしたく思う。 |
| 五月   |
| 二十日 伊賀市上下水道協同組合参拝祈祷（九名）  |
| 二十一日 奉賛講 講員安全祈願祭   |
| 二十二日 津市上下水道協同組合参拝祈祷（五名）  |
| 二十三日 北葛城地区水道事業部課長連絡協議会参拝祈祷（来社三名）   |
| 二十四日 月次祭   |
| 二十五日 水道事業部課長連絡協議会参拝祈祷（来社三名）  |
| 二十六日 津市上下水道協同組合参拝祈祷（五名）  |
| 二十七日 松阪市指定上下水道事業協同組合参拝祈祷（三名）   |
| 二十八日 伊勢市上下水道部参拝祈祷（八名）  |
| 二十九日 全国清々会総会及び見学会に禰宜出席   |
| 三十日 月次祭  |
| 六月   |
| 一 日 全国清々会総会及び見学会に禰宜出席  |
| 二 日 月次祭  |
| 三 日 月次祭  |
| 四 日 月次祭  |
| 五 日 紀の川市上下水道部・管工事業協同組合参拝祈祷（四名）   |
| 六 日 宇陀ライオンズクラブ正式参拝祈祷（十九名）  |
| 七 日 坂祝町役場水道環境課参拝   |
| 八 日 八百津町役場水道環境課参拝祈祷（四名）  |
| 九 日 新年総会   |
| 十 日 月次祭  |
| 十一日 末社恵比須神社例祭（初えびす）  |
| 十二日 山口県企業局他参拝祈祷（四名）  |
| 十三日 月次祭  |
| 十四日 月次祭  |
| 十五日 月次祭  |
| 十六日 月次祭  |
| 十七日 月次祭  |
| 十八日 月次祭  |
| 十九日 月次祭  |
| 二十日 月次祭  |
| 二十一日 月次祭   |
| 二十二日 月次祭   |
| 二十三日 月次祭   |
| 二十四日 月次祭   |
| 二十五日 月次祭   |
| 二十六日 月次祭   |
| 二十七日 月次祭   |
| 二十八日 月次祭   |
| 二十九日 月次祭   |
| 三十日 月次祭  |
| 七月   |
| 一 日 月次祭  |
| 二 日 犬神社水分神社への例大祭に向けた挨拶   |
| 三 日 石川県かほく市産業建設部上下水道課参拝祈祷  |
| 四 日 月次祭  |
| 五 日 全国春日連合会奈良県支部総会に禰宜教化委員出席  |
| 六 日 古市場納涼夏まつり（大盆踊り）  |
| 七 日 月次祭  |
| 八 日 全国春日連合会総会に禰宜出席（岐阜県）  |
| 九 日 月次祭  |
| 十 日 末社金刀比羅神社秋季例祭   |
| 十一日 例祭打合せ会議交野市水道局参拝  |
| 十二日 祈祷（五名）   |
| 十三日 月次祭  |
| 十四日 月次祭  |
| 十五日 月次祭  |
| 十六日 月次祭  |
| 十七日 月次祭  |
| 十八日 月次祭  |
| 十九日 月次祭  |
| 二十日 月次祭  |
| 二十一日 月次祭   |
| 二十二日 月次祭   |
| 二十三日 月次祭   |
| 二十四日 月次祭   |
| 二十五日 月次祭   |
| 二十六日 月次祭   |
| 二十七日 月次祭   |
| 二十八日 月次祭   |
| 二十九日 月次祭   |
| 三十日 月次祭  |
| 八月   |
| 一 日 月次祭  |
| 二 日 月次祭  |
| 三 日 月次祭  |
| 四 日 月次祭  |
| 五 日 月次祭  |
| 六 日 月次祭  |
| 七 日 月次祭  |
| 八 日 月次祭  |
| 九 日 月次祭  |
| 十月   |
| 一 日 大麻領布始祭に禰宜出席（橿原市）   |
| 二 日 宇陀支部神宮大麻領布始祭を当社に於いて斎行  |
| 三 日 頒布始祭を当社に於いて斎行  |
| 四 日 斎主奉仕準備   |
| 五 日 午前例大祭（神輿渡御祭）   |

十一月

九日 奈良県

裾野市水道部参  
拝祈祷



び周南地区工水  
利用者協同組合  
参拝祈祷（四名）

二十五日 摂社宗像神社例  
祭（亥の子祭り）  
山口県企業局及

九日奈良県神社序教化旅行に禰宜参加（兵庫県）

元旦一時御神水（若水）を奉獻し、  
氏子総代参列の下に厳かに歳旦祭を執  
り行い、氏子一同と全国水道事業関係  
者の無事平穏と事業の発展と安全を祈  
願いたしました。

吉例の如くお祓いをした御神札は菟  
田野郵便局開門と同時に発送の手続を  
いたしました。

—うつくしい水の守り神—宇太水分神社の御神札を事業所の清らかな高いところにお祀りし、日々事業の安全と豊水をお祈りいたしましょう。

御神札を年ごとに新しくお改めするのは、神は清浄を第一とすること、また若返えられた神の強いみ光を仰いで一層のご加護を願うという、祖先より受け継がれてきた伝統的信仰にもとづくものです。

一年間お守りいただいた古い御神札は感謝の心をこめて当社へお納め下さい。又は最寄りの神社へ納められても結構です。

おねがい

正式参拝祈祷ご希望の方は、その日時を電話等でご一報下さる様おねがいいたします。神職が不在の時もあり、ご迷惑をおかけすることになります。是非ともよろしくおねがいします。

TEL〇七四五一八四一二三

昨年の例大祭は、四年ぶりに疫禍前に復せたが、核となる祭儀に関しては今までと違った様相となつた。宮司の父は身体の衰えが激しく、市から要介護認定を受けていたが、それでも一昨年は辛うじて祝詞奏上はできていた。しかし遂に昨年は、それも能わず禰宜の私が替つて斎主を務める事となつた。本務社に於いても凡そ二年前から、次第に祈年祭や新嘗祭、摂末社の例祭等の行事は、私一人奉仕に移行していいたのだが…。初夏頃にその決意をし、祝詞を父から受け継ぎ、心の準備をして、いざ開扉をした本殿の御垣内で、大勢の参列者のもと畢えてみての実感は、極めて重いものがある、という事になろうか。更にその想いは午後からの神輿著御の儀で、倍増した。今までも豎折の姿勢で宮司が奏上する祝詞は、神代の昔よりの祭祀の実相及びお渡りの有様を、見事に披露して且つ地域の安寧と繁栄を祈るという、内容となつてゐる。その事を心に明瞭に刻み込めた時間であつた。午前の本祭の後、姫神様のお迎えするべく、東郷の大宿所に役員の車で急行する…という術を採つたからこそ、双方の斎主を務める事が可能となつた…のではあるが、平成十四年腰痛を発症した宮司に替り、初めて神輿を先導して以来、昨年の大祭は私にとつて大きな経験となり、これより当社を担つていく為の糧を齎した。感謝。

謹告

編輯後記

## ◇神徳宣揚奉讚講ご加入のご案内◇

例年多数のご加入をいただき厚く御礼申し上げます。

当神社では月次祭に水道事業の安全操業と豊水を祈願いたしております。

◎年間講費 1口 2千円以上随意

ご送金は振替用紙ご利用又は銀行振込み（南都銀行 菅田野支店）

店番290 普通口座031732 宇太水分神社神徳宣揚奉賛講)

にておねがいします。